

2019年11月10日開催
DREAM AS ONE. ×父子チャレンジアカデミー—SPECIAL FES.

代々木公園陸上競技場（子ども483名/保護者477名）



開催会場は、代々木公園陸上競技場。曇一つない気持ちの良い青空の下、9時30分、受付が始まると参加証を手に親子が続々と来場。今年も國學院久我山高等学校陸上部の生徒さんにお手伝いいただき、参加者には、参加パスポートと記念ボールペンそして、赤、青、黄、緑、オレンジ、ピンクの6色のチームカラーに色分けされた名札をお渡しします。



10時いよいよスタートです。司会進行は、元フジテレビアナウンサーの田中大貴さん。田中さんの軽妙な司会で出演アスリートをご紹介します。そして、為末大さんの号令で準備運動が始まりました。



程よく体も温まった後、いよいよ、各種体験指導開始です。5種類の競技を各自思い思いに体験します。かけっこ指導は、400mハードル走日本記録保持者の為末大さん。為末さんの記録は、2001年より17年間破られていない偉大な記録となっています。



走り幅跳び指導は、キングオブ陸上と称される陸上十種競技でアジア大会2大会連続金メダリストの右代啓祐選手。実技披露では、身長196cmの大きな体が宙に舞うとワー歓声が沸き、保護者の皆さんは、すかさずスマホ撮影。体が大きくて優しい右代選手は、子ども達に大人気です。



走り高跳び指導は、今年13年ぶりに日本記録を更新した戸邊直人選手。走り高跳び選手ならではのスラッと伸びた身長194cmの戸邊選手が舞うように跳びます。実技披露では、参加者の皆さんの拍手コールの中で、190cmのバーを軽々成功させ喝采を浴びていました。



車いすラグビー指導は、昨年の車いすラグビー世界選手権最優秀選手の池崎大輔選手と同大会優勝の要となった今井友明選手です。ルールを学び、体験後は5対5のチームに分け実践。ゲーム対戦は、ひときわ盛り上がります。



義足体験指導は、日本の義足短距離選手第一人者に成長された佐藤圭太選手。中学3年生の時に骨肉腫で足を切断したお話に皆さん真剣なまなざしで耳を傾けていました。初めて義足を試みる参加者は、装着後、恐々とその感触を体験していました。



交流ミニゲームでは、今年 100m 走日本人 3 人目となる 9, 98 をマークした小池祐貴選手も緑組のチームリーダーとして参戦。混戦の結果、玉入れ競技は今井選手をリーダーに率いる青チームの勝利となりました。



ミックスリレーは 2 回戦勝負。トラック 1 周 50m×8 区分を車いす、パン食い競争、二人三脚、かけっこの順にバトンを繋ぎます。さすがのトップアスリート達も車いすラグビー選手の車いすさばきには、かないません。アンカーを務めた 100m9 秒台アスリート小池選手も池崎選手に完敗です。



為末さんのお話には 2020 東京期待のアスリートの右代選手、小池選手、戸邊選手、池崎選手も加わり、オリンピック・パラリンピックに向けた意気込みもお話いただきました。また、スポーツ記者顔負けの子ども達からの質問にも笑顔をお返しいただきました。そして、最後は、参加者皆さんの頑張りを称え合いました。楽しい思い出の 1 ページになりましたね。

